平成２５年度帰国者報告会ならびに帰国教員歓迎会

平成２５年６月２２日（土）に上記の会が，アークホテルなどで開かれました。当日は橋本顧問，久山顧問，武参与，山本参与をはじめ約３０名の会員が出席しました。午前中は，ピュアリティーまきびで，帰国者報告会がありました。今回は，４人の帰国者全員から貴重な現地での体験が報告されました。

まず，鳥居恭治会長が，無事帰国したことをお祝いしました。そして，これから岡山県の教育や，本会での活躍を期待しますとあいさつを述べました。

続いて，帰国者からの報告です。

南隆仁先生は，ミュンヘン日本人学校に派遣されていました。ドイツ語の授業と，国際理解教育に重点を置いている学校だそうです。現地校との交流が，年間４回もあったり，発表会に招待して日本語やドイツ語の歌を歌ったりしたそうです。また，現地理解としてＢＭＷの工場を見学したり，化石を掘って始祖鳥の化石を見つけたりしたそうです。この海外派遣から，改めて感じたことは，日本の文化や歴史を知り，日本人としての誇りや日本の素晴らしさを伝えられるような子どもを育てていきたいということだったそうです。

高木恭子先生は，クアラルンプール日本人学校に派遣されていました。児童生徒数が約８００人，教職員数約８０人の大規模校です。盆踊りや合唱大会，百人一首大会，そして年３回の日本人墓地清掃などの行事があったそうです。現地校とも文化やスポーツで交流していたそうです。また，日本語教室といって現地の人を対象に，夜間にクラスを開講し，先生としてボランティアで参加したそうです。この海外派遣から，広い視点から物事を見ることや，生きた教材を開拓していく精神，そして誰とでもお互いの良さを認め合い協働していくことなどを学んだそうです。

平成２５年度帰国教員歓迎会

帰国者報告会は，ピュアリティーまきびで，行われました。報告会が午前にあり，歓迎会はまた別の会場に移るというスタイルを導入して２年目になります。なお，子どものための国際理解講座は，帰国教員の学校などで，開かれる予定です。

小野剛一先生は，ハノイ日本人学校に派遣されていました。４年・１年・５年と担任し，研究主任も任されたそうです。電子情報ボードを導入したり，６つの講座を開設したり改革していったそうです。現地理解では，ゴミ処理や浄水場，ホンダ工場や伝統工芸の見学を行ったということでした。この海外経験から，職員の連携の大切さや広い視野をもつことの大切さ，柔軟性や適応力，強い意志と実行力などを学んだということでした。

山口佳子先生は，台北日本人学校に派遣されていました。現地校に，どんどん行って見学して来たそうです。子どもたちは，ジャージが制服で１日を過ごしていたそうです。ノートはなく，教科書にそのまま書き込んでいたり，お昼寝タイムがあったりと，日本と違うことに驚いたそうです。海外を経験して，これからも台湾のことを知っていきたいし，子どもたちに台湾のことを伝えていきたいと話されました。

久山岡山県教育庁教職員課長が，講評をして下さいました。「各赴任先での状況がよく分かり，それぞれに大変な仕事だったと思います。現在岡山県では，世界にはばたけ！グローバル人材育成プランを掲げて，将来を担う人づくりをめざしています。派遣の貴重な経験を生かして，国際理解教育の推進をお願いします。」

橋本岡山市教育次長も，講評されました。「先生方は，海外では当たり前だが日本では違うとか，その逆であるとか，日本と異なる世界で過ごされた経験を，ぜひ自分のおかれた場所で信頼関係を保ちながら，しっかり生かして活躍してください。岡山市では，来年度ＥＳＤの世界大会があります。まさに先生方の力もおかりして，岡山の教育を世界にアピールできたらと思っています。」

さて，場所をアークホテルに移して，帰国者の歓迎会が開かれました。会場の「ラ・ペーシュ」は，南仏をイメージした外からの豊かな緑と光が入る明るい雰囲気のレストランです。報告会も，帰国者４名全員の方とご家族を歓迎する会となりました。

まず，鳥居恭治会長が全員の紹介をしました。「色色な国，それぞれの任地から無事帰国され，本当におめでとうございます。先ほどの報告会では，現地での様子を素晴らしくまとめておられましたが，この会では，ぜひエピソードをご披露下さい。本会のことも忘れず，岡山県の国際理解教育の推進のため，お互いにがんばっていきましょう。」

次に，武参与から挨拶がありました。「みなさんはこれからの意気込みを語っていましたね。まずは，この会の行事に，しっかり参加することが大切だと思っています。私は，今回岡山ユネスコ協会の会長を引き受けることになりました。来年は，ＥＳＤ世界会議が，この岡山で開かれます。みなさんもぜひ，活動に協力してください。」

続いて，帰国者からの報告です。

南隆仁先生は，ミュンヘン日本人学校に派遣されていました。現在は，高梁市立高梁東中学校に勤務されています。先生は，中学校の教員でありながら，小学校の５年生と６年生を持ち上がりで担任したそうです。日本ではありえない経験ができ，教え子からは今も毎朝メールで様子を伝えられて，元気をもらっているそうです。途中で椎間板ヘルニアを患い，手術を余儀なくされたけれど，その後のドイツ式リハビリも，スポーツトレーナーの在り方として勉強になったということでした。奥様からは，ドイツ語は最初，英語の教員だけど全く分からなかった。でも，３年間ドイツ語学校に通い，たくさんの国の人と知り合えて，すてきな財産になったということでした。

高木恭子先生は，クアラルンプール日本人学校に派遣されていました。現在は，岡山市立桑田中学校に勤務されています。ご主人が盲腸になったり，交通事故に遭ったりしましたが，無事帰国できて良かったということでした。先生は，英語の教員ですが，マレーシアの英語はマングリッシュという独特の英語で，分からなかったそうです。学年主任として，シニア派遣の元校長だった先生や，財団派遣の大学新卒の先生と学年団を組み，色々な年代の先生と仲良く仕事をできたことは，大変いい経験になったそうです。今も，教え子達から毎日のようにメールが来て，励みになるし，いい出会いが出来たなあと感じるそうです。その子ども達が成長した時に，先生頑張っているなあと言われるようにこれからもしっかり仕事をしていきたいと話されました。

小野剛一先生は，ハノイ日本人学校に派遣されていました。現在は，総社市立総社小学校に勤務されています。ハノイ日本人学校には，スライド組と呼ばれる海外を転々と渡り歩く保護者が多く，児童生徒の中には日本のことがよく分からない子どもが，意外にたくさんいたそうです。修学旅行で，ホーチミンに飛行機で行った時，生まれて初めてエコノミークラスに乗るという子どももいて驚いたそうです。現地では，ほとんどみんなお腹をこわすので，教頭先生もその連絡には驚きません。たいてい数日休むことになったそうです。ベトナムは，平均年齢が２０歳代と若く，非常に活気があるそうです。また，小学校や中学校は英語が教科として教えられていて，オール英語の学校も増えているそうです。ベトナム人は，日本に好意的だし子ども好きで，レストランに行くと店員がすぐに子どもをだっこしたりキスをしたりして，どこかに連れてくこともしばしばだったそうです。帰国して，現任校は特別支援学級を担当しているけれど，３年間の海外体験によって，その子どもをありのままに受け入れようすることができるようになったということでした。

山口佳子先生は，台北日本人学校に派遣されていました。現在は，早島町立早島小学校に勤務されています。日本とは違い，子どもたちは自由でのびのびと過ごしているそうです。母親の学校に対する関心が高く，ほぼ毎日が学校開放のように保護者が学校に来ているそうです。台湾では，日本の敗戦後に，国際結婚で生まれた子どもの内，２０歳以上は日本に帰され，２０歳未満は台湾に残って家族離散が起きたそうです。そういう事実を初めて知って，戦争という過ちを２度と起こしてはならないということを，改めて感じたそうです。先生は，学校で知り合ったバドミントンのコーチと，めでたく結婚することになりました。日本の子ども達のためにこれからも教職をがんばりたいという先生の思いにこたえて，彼の方が日本に来ることになったそうです。このことが３年間の１番の財産だと喜びを報告されました。

乾杯の音頭は，山本正参与でした。先生は，オーストラリアから帰国した際，普通はやせているのに太っていたから，ご苦労様とは言われなかったそうです。４名の先生方の無事の帰国と，岡山県国際理解教育研究会のますますの発展を祈念して，アルコールは無しですが乾杯をしました。

閉会のあいさつは，片山副会長が行いました。「今まで胸の内にしまっていましたが，校長との折り合いが難しかったというエピソードがたくさん報告されましたから，私もお話します。１年目の校長は，大変素晴らしく，私ともよく合いましたが，２年目に赴任してきた校長は正反対で，調整役として苦労が絶えず，ご意見を申し上げなければいけないこともありました。この会は，辛かったことや楽しかったことを自分と重ねて思い出し，熱い思いをもう一度新たにしてくれる会です。帰国時は，私も逆カルチャーショックがあったり，インフルエンザにかかったり大変でした。宝物のような貴重な経験を生かして国際理解教育を推進していきたいという思いを大切にしながら，無理をせずがんばっていきましょう。」と，話されました。